

# 効率的な土地利用型農業を確立し、中山間地域の農地を一手に担う経営体 ～葛岡・瓜迫 農事組合法人～

## 経営体の概要

法人設立時：平成26年  
基幹作物：水稲、小麦、大豆  
経営面積：10.0ha

現在：令和5年  
基幹作物：水稲、小麦、大豆  
経営面積：36.6ha

## 土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

### 【事業実施前】

- 狭小不整形かつ分散錯圃、用排分離もされていない湿田で機械利用の制約も受ける非効率かつ不安定な営農条件。
- 農業機械が入れないような農地を中心に耕作放棄地が増加。



### 【現在】

- 国営南周防土地改良事業（平成23年～）により、整形・汎用化された水田が整備されたことで、作業効率が向上し、営農条件が大幅に改善。
- 水田が汎用化されたことで、畑作物の生産が可能となり、大豆の高品質安定生産を実現。



## 営農改善、経営転換等のポイント

### ①事業を契機とした法人の設立と経営規模の拡大

事業により効率的な営農条件が整備されたことを契機に、平成26年に「葛岡・瓜迫農事組合法人」を設立した。当初の経営面積は10haであったが、担い手や法人役員の高齢化により地域農業の維持が難しい状況になってきたことを受けて、新たに若手の専従職員を雇用し、地域の農地を一手に引き受ける形で経営規模を拡大し、現在では町内の7団地にまたがる農地で大規模土地利用型農業を展開している。今後もほ場整備後の農地を担うことが決まっており、延べ50haの経営規模となる見込みであり、田布施町の農業を支える経営体として活躍している。



大豆ほ場

### ②栽培技術の確立・向上と単収の向上

中山間地域で区画面積が小さく、管理する筆数が多いため、作業が重複する6～7月頃の労働力のピークが課題となり、特に大豆では播種の遅れや肥培管理が十分にできないことで、単収が著しく低い状況となっていた。

これらの課題を解決するため、SNSを使った他地域の担い手との交流を通じた情報収集などを参考に、地域にはない大豆の晩播の作付体系を導入し、独自の工夫で栽培技術を確立することで、労働力のピーク分散が可能となり、令和4年には南周防地区の法人内で大豆の単収と生産量が1位になるなど、生産性の高い土地利用型農業経営の模範となっている。



大豆収穫作業  
(R5単収:169.1kg/10a)



3名の若手従事者

## 事業概要

事業種：国営緊急農地再編整備事業  
関係市町：山口県光市、柳井市、熊毛郡田布施町  
受益面積：577ha  
事業期間：平成23年～令和9年  
事業目的：区画整理、排水改良 等  
主要工事：区画整理 390ha、農業用排水 36ha、暗渠排水 182ha

## 位置図



## <問い合わせ先>

中国四国農政局  
農村振興部農地整備課  
営農指導係  
電話：086-224-4511  
(内線：2562)

(令和5年度調査時点)